



- ① 地球環境問題への取組み 43
- ② 循環型社会形成への取組み 44
- ③ 地域環境の保全 45

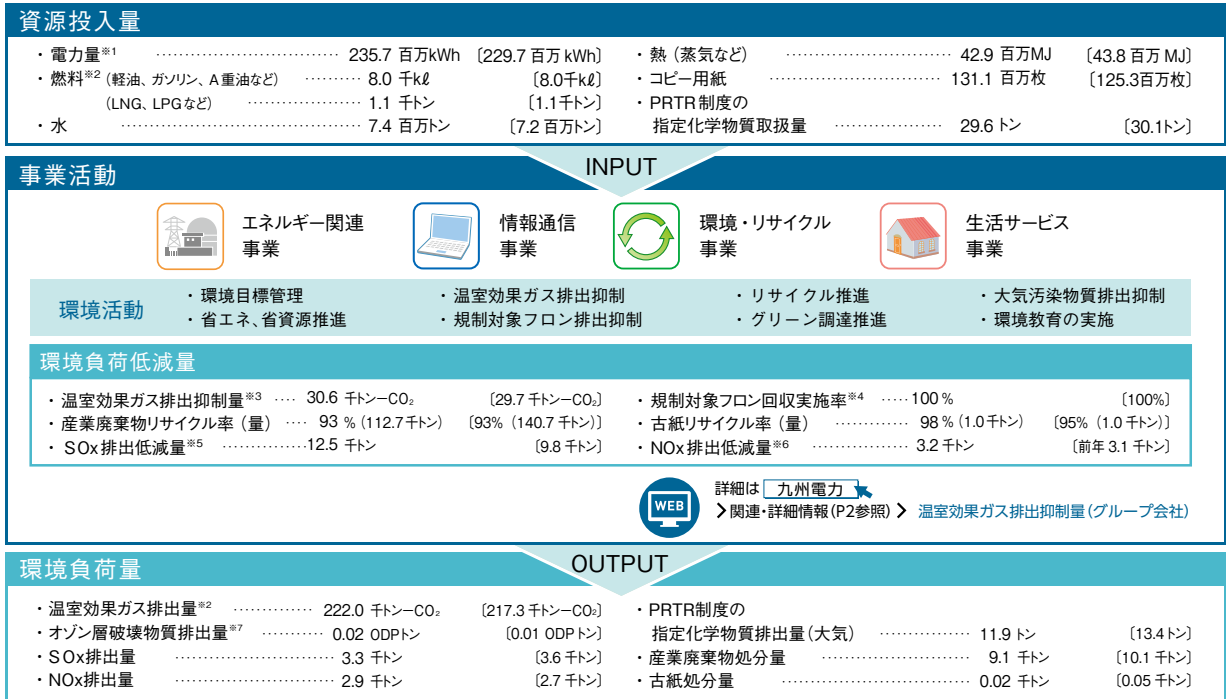


- ④ 社会との協調 46
- ⑤ 環境管理の推進 47



事業活動と環境負荷の状況

下図は、グループ会社での資源や資材の投入から、事業活動を経てどのような環境負荷が発生しているかを表したものです。今後も、この現状を踏まえ、更なる環境負荷低減に努めていきます。



(注) [] 内は2015年度の実績値。実績集約の考え方については、P.41 参照。
 ※1: 発電所内電力量等を除く購入電力量を計上。 ※2: 電力会社等への販売電力量分(発電用燃料及びその燃焼に伴う排出量)を除く。 ※3: グループ会社が事業所に設置した太陽光発電設備等の導入実績において、導入しなかった場合をベースラインとして算出。 ※4: 点検時において法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までガス回収を実施した機器の割合。 ※5: ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硫処理や低硫黄燃料の使用を行わなかった場合をベースラインとして算出。 ※6: ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硝処理を行わなかった場合をベースラインとして算出。 ※7: 各フロンのオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11重量相当に換算。



環境目標と実績

主要な環境活動について目標を定め、環境負荷の継続的な低減に努めています。

項目	単位	実績			2016年度環境目標	2017年度環境目標	
		2014年度	2015年度	2016年度			
地球環境問題への取組み	オフィス電力	使用量	23.5	22.8	23.5	—	
		単位面積あたり使用量	kWh/m ²	90.1	86.7	89.4	91 程度
	自家物流輸送(特殊車両等を除く)	低公害車導入比率 ^{*1}	%	67.9	68.9	69.6	68 以上
		燃料消費率(燃費)	km/ℓ	11.3	11.1	11.2	11.0 以上
	SF ₆ (六フッ化硫黄)回収率	機器点検時	%	実績なし ^{*2}	99	実績なし ^{*2}	98 以上
		機器撤去時	%	100	100	実績なし ^{*2}	99 以上
	機器点検時の規制対象フロン回収実施率	%	100	100	100	100	
用紙使用量 ^{*3}	百万枚	127.7	125.3	131.1	事務用紙使用量の節約	事務用紙使用量の節約	
上水	使用量	千トン	140.5	139.9	144.8	—	
	一人あたりの使用量	m ³ /人	13.1	12.9	12.9	14 以下	
循環型社会の取組み	リサイクル率	産業廃棄物	%	96	93	93	95 以上
		石炭灰	%	100	100	100	100
		石灰灰以外	%	80	76	74	80 以上
		古紙	%	97	95	98	93 程度
グリーン調達率	%	87	86	87	86 程度	86 程度	
地域環境の保全	火力発電電力量あたりのSOx排出量	g/kWh	0.20	0.34	0.32	0.3 程度	
	火力発電電力量あたりのNOx排出量	g/kWh	0.25	0.26	0.27	0.3 程度	

※1: 電気自動車(プラグインハイブリッド車を含む)、ハイブリッド車及び低燃費車のグループ会社保有車両総台数に占める割合。
 ※2: 設備は保有しているが、機器の点検や撤去の実績がないもの。 ※3: 用紙使用量はA4サイズ換算枚数。
 (注) 実績集約の考え方については、P.41 参照。

詳細は [九州電力](#) WEB 関連・詳細情報(P2参照) > オフィス電力・自家物流輸送(グループ会社)

用語集をご覧ください

- 地球環境問題
- 循環型社会
- LNG(液化天然ガス)
- LPG(液化石油ガス)
- PRTR(制度)
- 指定化学物質
- 温室効果ガス
- 規制対象フロン
- グリーン調達
- 産業廃棄物
- リサイクル率
- SOx(硫黄酸化物)
- NOx(窒素酸化物)
- オゾン層破壊物質
- 所内電力(量)
- ばい煙
- 脱硫処理
- 低硫黄燃料
- 脱硫処理
- フロン
- オゾン層破壊係数
- CFC-11(トリクロロフルオロメタン)
- 自家物流輸送
- 低公害車
- SF₆(六フッ化硫黄)
- 上水
- 石灰灰
- 電気自動車
- プラグインハイブリッド車
- 低燃費車
- 大気汚染物質